1949年９月17日第三種郵便物認可　毎月10日発行　第657号（通巻1161号）　定価１部40円

創立1880年
YMCA
東京YMCA
2008 6 月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　新井廣和
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

2008年度 会員部の働き語る
Yでつながろう 心通わせよう

会員部発足から5年が経過した。2008年度会員部は、「2007―2009東京ＹＭＣＡ会員部3ヵ年計画」2年目の年として、どのような働きが求められているのか。またその期待に答え、会員部の働きをどのように進めていくのか。小原武夫会員部運営委員長を中心に運営役員の浅見隆夫委員、笠川光郎委員、村杉克己委員と、今年度より会員部を担当する南宮成一主任主事にお話を聞いた。（広報室）

―2008年度のスタートにあたり、昨年を振り返って感想をどうぞ。特に印象に残る活動などがあればお話し下さい。

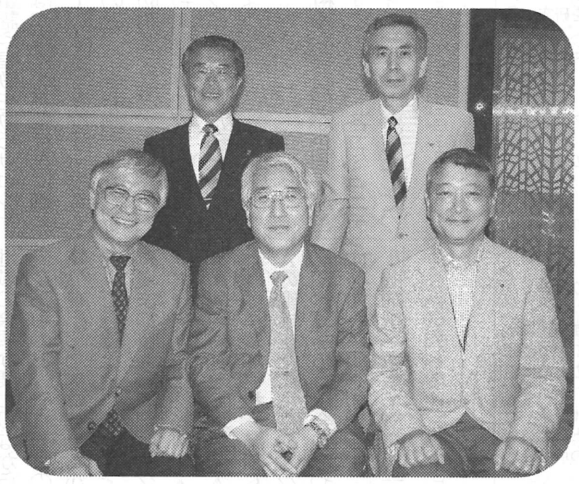
小原　東京ＹＭＣＡの使命を実現し、社会から必要とされる活動を積極的に展開するために、いくつかの新しいプログラム実施を試みました。行事によっては、開催日時や場所、案内方法など、それぞれの課題も見えてきたように思います。今年度は、さらに多くの人々が東京ＹＭＣＡのプログラムに参加できるように工夫し、社会の課題に応える活動の輪を広げていく必要があると思います。

笠川　私は「第2回教育シンポジウム」を担当させていただきました。スタッフの熱い思いで始められたシンポジウムの企画から運営に携わり、東京ＹＭＣＡ運動の新しい一歩を踏み出したかなという喜びを感じています。多くのスタッフと会員部が協働して、プログラムを実行できたことが大きいですね。

浅見　「教育シンポジウム」には会員として参加しましたが、幼児を預かって、若い母親の参加を可能にしたこと。またそれによって、大変活発なディスカッションができたことなど、実りあるプログラムだったと思います。シンポジウムには〝孫の心の動き〟を知るために参加されていた祖父母もいらっしゃり…驚きを感じましたけれども。このような世代を超えたプログラムが社会で必要とされていることに気付きましたね。

担当の「避難所開設シミュレーション」では、災害対策チームの中で、東京災害ボランティアネットワークの方から、事前準備として防災や災害発生時の対応についてレクチャーを受けました。昨年行われた「帰宅困難者対応訓練」などでも実際に徒歩訓練を体験し、災害対応時への学びを深めたりと、実施までにいくつかのステップを踏んでいきました。当日は東陽町センターに一泊し、避難所生活のシミュレーションをしましたが、それは全て予定された事柄であって、実際に災害に遭遇したらどうなるのか、想像がつきませんね。会員とスタッフで約30人の参加でしたが、もっと積極的に会員にアピールしなければと、啓蒙活動の必要性を感じました。

村杉　「教育シンポジウム」も「避難所開設シミュレーション」も、会員が自分のこととして捉え、参加できるようなプログラムづくりをしていくことが大切ですね。今後はそういったことも踏まえながら、企画・展開していけたら良いと思います。私が担当している「インターナショナル・チャリティーラン」も、昨年は会員の参加を積極的に呼びかけることを心がけ、当日に模擬店やミニサッカー大会などでのボランティアを担って頂きました。


写真前左から、小原委員長、南宮主任主事、笠川委員。後列左から、浅見委員、村杉委員。

特にチャリティーランは規模が大きいので、会員だけでなく国内外の企業・団体など、多くの方々にボランティアなどで関わって頂けたらすばらしいですね。

笠川　「教育シンポジウム」も、第3回目の実施に向け、動き始めています。ますますこのＹＭＣＡ運動の輪が全体に広がるように進めていけたらと思います。会員部とワイズメンズクラブが主体となって行われているプログラムが数多くありますが、会員部・ワイズメンズクラブ・スタッフの協働も展望して、ぜひ展開していきたいと思います。

浅見　「チャリティーゴルフ大会」も今年で第19回を数えますが、参加者から〝青少年の育成に協力できた〟と喜ばれ、〝来年もまた参加します〟と励まされました。

いろいろな場面でＹＭＣＡの応援団がいることを心強く思い、既存の活動もさらなる広がりを考えていかなければなりません。

会員とスタッフと協力して
「第２回教育シンポジウム」

南宮　私は3ヶ月余りが過ぎましたが、先ず2003年の新会員部立ち上げから関わり、2007年3月まで運営委員長を務められた鈴木健次さんと、今年の3月まで担当主事を務めた沖利柯さんに感謝を申し上げ、この間培ってきたものを踏まえ、さらに発展させたいと思っています。

―2007年は芸術祭や夏まつり、ソフトボール大会など、これまでのプログラムに加え、新しい会員活動が数多く実施されました。特に10月の「ソシアス・フォーラム2007」（10月20～21日於山中湖センター）は会員とスタッフが共に学び、ＹＭＣＡを語り合う良い機会だったのではないでしょうか。

小原　「ソシアス・フォーラム」は、『会員と職員が忌憚なく、話し合う場を持とう』という会員部発足以来の願いが実現したものです。〝会員がＹＭＣＡに何を求めているのか〟〝スタッフは会員のどのようなサポートを必要としているのか〟など、多くの皆さんと積極的に考える場として、続けていかなければいけないプログラムだと思っています。今年は10月18日(土)～19日（日）に実施予定です。どうぞ皆さん、今からご予定頂き、東京ＹＭＣＡと会員部の未来について語り合いましょう。

村杉　フォーラムでは話し合う機会だけでなく、会員と会員、会員とスタッフの交流の場がたくさん用意されていました。いつものセンターではなく、泊まりがけでキャンプ場に集うということは、雰囲気も変わって、より一層の連帯感を感じましたね。特にキャンプ経験の無い私などは、ＹＭＣＡキャンプの一端にも触れることができて、良い時になりました。

南宮　〝ソシアス〟とは、ラテン語で〝仲間〟という意味があり、〝アソシエーション〟の語源になっています。名前の通りに、ＹＭＣＡの仲間とすばらしい集いができました。フォーラムの前に、完成したばかりの山中湖センター新浴室献堂式（お披露目の会）を行ったのですが、募金下さった会員や企業、スタッフなど約40人が参列され、皆さんのＹＭＣＡへの熱い思いや山中キャンプでの懐かしい思い出なども伺うことができました。

小原　そうですね。真新しい浴槽に浸りながら、私をＹＭＣＡへ誘って下さった大先輩の会員とゆっくり語り合うことができました。『山中キャンプを訪れた、若い頃が思い出されます』と仰っていましたね。

「ソシアス・フォーラム」は、ＹＭＣＡ歴が長い会員も新しい会員も、〝Ｙを愛する同じ仲間同士〟が過ごす充実のひと時だと実感しました。会員組織ＹＭＣＡの〝これから〟を考える場であることは言うまでもありませんが。

―「ソシアス・フォーラム」で話し合われた一つひとつが、次へのステップのアイデア＝要素となって、会員活動がますます活発になって欲しいですね。

さて、2007年度の会員プログラムを踏まえて、会員活動で今後期待されること、考えられることは何でしょうか。

笠川　会員部3ヵ年計画の中で、具体的には西東京の「バリアフリーマップ作成」

（2面へ）

総主事室から
若者を求め、育成する

◇「愛は隣人に悪を行いません」（ローマの信徒への手紙第13章10節）

来年度、私たちの組織でスタッフとして働きたいと考えている40人を超える若者たちの前で、東京ＹＭＣＡの願い＝弱い立場に置かれた人々の隣人になることの意味＝を伝えました。総主事として、神様からお預かりした東京ＹＭＣＡに新たなスタッフを招き入れるための説明会には、必ず一番目に話をさせて頂くことにしています。

◇真剣に耳を傾ける若者たちは、東京ＹＭＣＡの採用説明会に来館する若者だけではなく、1000名を超す専門学校の学生や、ユースボランティアが存在する事も忘れることはできません。彼ら一人ひとりが、〝この社会で、この世界で何かをしたい〟と考えているのを感じ取るのは私だけでしょうか。

◇「こんな世界であっても、それでも私は全力を尽くして世界を変えたい」と願う若者を私は求めます。隣人に、悪ではなく愛をもって接することを願う若者たちにその道を整える役割が、私たち東京ＹＭＣＡには求められています。それはその先に必要とする人々が常に存在するからです。

◇私たちが誇る東京ＹＭＣＡ会員やワイズメンズクラブの方々には、そんな若者たちを励まし、ＹＭＣＡの活動を通して育てることが求められます。会員大会で新たに選ばれた運営委員の方々をはじめ、ＹＭＣＡに連なる全ての皆様と共に、隣人に愛をもって接する若者の育成に祈りをもって具体的に邁進したいと思います。そしてその事が神様に求められていると思うのです。（廣）

赤▽三角

5月24日、「在京ワイズメンズクラブ会長会・担当主事会」が開かれた。20クラブから現・次期会長合わせて26人に担当主事15人、幹事・区役員なども加わって50人が朝から社会体育・保育専門学校に集った。▼東京ＹＭＣＡを支える東京で活動するクラブ（信越妙高を含む）と、在日本韓国ＹＭＣＡとそのサポーターである東京センテニアルクラブも加わっての会合は、他には余り例を見ない。▼議事では、東京ＹＭＣＡ会員部の活動報告と2008年度の計画を聞き、さらに、新井廣和総主事から重点活動方針について詳細な説明を受けて理解を深めた。東日本区のワイズ組織の1／3のクラブが一堂に会して、一つの都市ＹＭＣＡとの協働について協議するのは、まさにＹＭＣＡとワイズメンズクラブのパートナーシップの実践であり、山中湖センター施設整備事業での推進等も成果のひとつといえる。▼東京ＹＭＣＡは、在京の全クラブに担当主事を配し、担当主事会への積極的な参加も奨めている。この日は、午後に「第6回会員大会」が東陽町センターで開かれ、多くのワイズメンが会員として参加した。次回会長会は来年1月、在京クラブ合同新年会と同日に開かれ、2009年の東京ＹＭＣＡとの協働について協議される。どのような形でＹＭＣＡを支援すべきか、会員としてワイズメンとして考えていきたい。（東京まちだクラブ　小山正直）

We build strong kids, strong families, strong communities.　YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。